

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 27

タカギベトナムについて

鈴木 雄大
Yudai SUZUKI

環境ソリューション工学科 2年

1. はじめに

8月29日から9月7日にかけて ASEAN グローバルプログラムという海外研修プログラムで、ベトナム（ハノイ）およびシンガポールでの研修に参加した。自分にとっては初の海外体験でもあったので、新しい発見や日本では当たり前のことと海外での当たり前が違うということを実感できる良い経験になった。

概要を記すと、このプログラムは、8月29日から9月2日までの4日間はベトナムで研修、9月3日から9月6日までの4日間はシンガポールでの研修であった。ベトナムでは2日目、企業見学で海外に拠点を置いている日系企業であるタカギベトナムを訪問した。近年、グローバル化というキーワードとともに、その重要性が高まっていることは誰でも知っていることであり、海外進出する日本の企業は年々増加の傾向にあるが、まだまだ国内市場だけの企業も少なくない。その中で、タカギは2009年からベトナムでの生産を稼働しているとのことであった。ベトナムでは他に、日本の企業であるタカギとベトナムにある大きなIT企業であるNTQとRIKKEIの訪問をし、質疑応答や、実際に働いている方と交流もできた。3日目と4日目はハノイ工業大学でその学生たちとユニクロの商品をマーケティングするPBLを行った。ベトナムの方々はとても親切で、突然行った我々の街頭アンケートにも快く対応してくれた。シンガポールでは南洋理工大学を訪問し、実際に講義を受けたり研究室を見学できた。とても大きな大学で、車や医療用ロボット、飛行機の管制システムなど、とても高度な研究をしていると感じた。5日には加藤順彦氏による「若者よアジアのウミガメとなれ」という講演会を聞き、実

際に海外でご活躍されている日本のビジネスパーソンの方との交流会もあった。とてもタイトなスケジュールであったが、全体を通して密度が高く、とても多くのことに触れる貴重なプログラムであった。

2. タカギベトナムの商品、事業内容

本稿では特にハノイのプログラムであったタカギベトナムの訪問と工場見学について報告する。タカギベトナムの企業概要は次表のようである。

会社概要 Corporate Outline

| | |
|------|--|
| 名称 | Takagi Vietnam Co., Ltd. |
| 所在地 | Plot No.C-1&C-2, Thang Long Industrial Park II, Yen My District, Hung Yen Province, Vietnam (Hanoi area)  |
| 設立 | 2008年11月 (2009年12月操業開始) |
| 代表者名 | 久保 忠志 General Director Tadahiko Kubo |
| 敷地面積 | 47,600m ² |
| 社員数 | 257名 (2016年4月現在) |
| 企業理念 | 従業員とその家族の『物心両面の豊かさ』を実現するとともにベトナム社会の発展に貢献する。 Fulfill the happiness of the employees in both physically and mentally. |

図 タカギベトナムの企業概要
(<https://www.takagi.co.jp/company/vietnam/index.html> より)

タカギベトナムでは、蛇口一体型浄水器の生産をおこなっている。これは、ベトナムに向けて作っているのではなく、日本に売り出すために作っている。ベトナムの水道水は、まだまだ浄水器で洗浄したくらいでは飲料用として飲めるレベルには到達しないので、ベトナムに浄水器を売り出すことはできない。けれども、ベトナムの工場で行うことで、日本で生産するよりもよりコストを抑えることができるとのことだった。タカギベトナムの工場では、金型の製造機を用いて部品を大量生産し、その部品を人の手によって組み立てて生産していた。日本だと、人件費がとても高く、たくさんの人を雇うことができないけれどベトナムでは日本の約4分の1の人件費しかかからないので、工場のラインにたくさん従業員を雇うことができるという話を聞いて、日本の企業が海外進出する理由を再確認でき、そのような流れを実感した。また、ベトナム人は、

日本人ととても似ていて、手先がとても器用なので、細かい手作業でも手際よく作業をすることができ、また、工場のラインで働いている人のほとんどが女性であったことも印象的だった。ベトナム人は男性より女性の方がまじめで一般的には多くの給料を稼いでいることが多いとの話を聞き、国によって違う雇用状況の大きさなどを実感した。

タカギベトナムでは蛇口一体型浄水器のほかに金型製造機の改良なども行っていた。常に効率化を追求し、ライン作業の従業員ですら、作業の効率化のために新しい装置を作ったり、試行錯誤を繰り返しているとのことで、日本の企業の様子を知っている



写真 ベトナムでの工場見学の風景

わけではないが、企業が発展していく様子を体感できた。

工場では、私語をしている従業員はおらず、とても真面目に働かれていると思った。日本人の社員は7人とのことで、主に事務などの管理をしているとの説明を受けた。然し、将来的には、すべてベトナム人で工場を経営していくことを目標としているとのことで、様々なグローバル化の様子を見ることができたと思う。

3. おわりに

海外で活躍している企業を実際に自分の目で見て、海外にまで視野を向けて市場を構えることは、これからの時代にとっても重要なことだと身をもって実感した。事前学習などから日本のGDPはここ20年間もの間横ばいが続いていると学び、日本だけに市場を構えているとこれから売上げがどんどん厳しくなってくると思う。しかし本プログラムを受け、世界的に見れば若年層の人口も増加の傾向にあり、経済も発展してきているので、海外での市場はますます活発になってくることが予想されることを身をもって理解した。このプログラムを通してグローバル化ということを実感することができ、自分にとって大きな収穫となったと思う。